

2025年度以降入学生用 常盤短期大学 幼児教育保育学科 履修系統図(図形式)【ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーと各授業科目の対応関係】

建学の精神 実学を重んじ真摯な態度を身につけた人間を育てる。  
 教育理念 自立・創造・真摯  
 教育研究上の目的 1. 幼児教育および保育に携わる者として必要な豊かな人間性を育み、さらに高度な専門的知識および技術を身につけさせるために、これに係る教育研究を行う。  
 2. 1.の目的を達成するために、幼児教育および保育を通して人間関係の基礎を教授し、保育の技術を実践的に教授する。そして、保育を通して自己の成長を図るように教育する。  
 3. 1.の教育研究を通して、質の高い実践力を持ち、自覚または責任を兼ね備え、子どもたちと心を通い合わせることで豊かな人間性を持った保育者を社会に送り出す。

教育課程の編成及び実施に関する方針 (教育課程編成・実施の方針、カリキュラム・ポリシー)						
1. 教育課程の編成と特色等 (1) 教育内容(編成方針) ① 幼稚園教諭一種免許状および保育士資格の取得要件に対応可能な教育課程を編成する。 ② 短期大学士として必要な知識・技能・汎用的な能力・態度・志向性を養うため、授業科目区分の科目群は、順序性・系統性を持たせて配置する。 ③ 幼児教育・保育に関する課題に対応できる実践力・応用力を身につけ、生涯にわたり自らの資質を向上させる態度を養うための科目群を配置する。 (2) 教育方法(実施方針) 本学での学修を通して人間性豊かで実践力のある教育者・保育者を養成するため、段階的な教育方法を実施する。						
		授業科目・単位数				
		1年次		2年次		
		①講義・演習科目では、乳幼児を取り巻く社会環境や、乳幼児期の発達段階や特性等、幼児教育・保育に不可欠な知識を学ぶ。 ②実習科目では、乳幼児等と触れ合い、子どもの理解、具体的な援助法・指導法を実践的に修得する。		①1年次に学んだ内容からさらに踏み込んで、実践力、応用力を養う。 ②実習科目では、乳幼児等と触れ合い、子どもの理解、具体的な援助法・指導法を実践的に修得する。		
		春semester	秋semester	春semester	秋semester	
1. 基礎科目群 「教養」と「基礎」に区分し、現代社会を多面的に把握し主体的に生きる知恵としての教養と、保育者に求められる基礎・基本とを、広い視点から学ぶ。	教養	2科目3単位 必修	心の充実Ⅰ(講)・2 心の充実Ⅱ(演)・1 ※通年	心の充実Ⅱ(演)・1 ※通年		
		1科目2単位 選択必修	歴史と文化a(講)・2/歴史と文化b(講)・2			
		1科目2単位 選択必修	社会と人間a(講)・2/社会と人間b(講)・2			
		1科目2単位 選択必修	情報と科学a(講)・2/情報と科学b(講)・2			
	基礎	2単位 選択	国際文化研修(演)・2			
		計5単位 必修	日本語表現(講)・2 コンピュータ演習Ⅰ(演)・1 英会話Ⅰ(演)・1		総合体育(実技)・1	
		計6単位	日本国憲法(講)・2 身体活動論(講)・2	コンピュータ演習Ⅱ(演)・1 英会話Ⅱ(演)・1		
		教育・保育の本質	計6単位 必修	教育原理(講)・2 教育課程論(講)・2	保育内容総論(演)・2	
	計4単位		保育原理(講)・2			
	保育内容	計2単位 必修		子どもと健康Ⅰ(演)・1 子どもと表現Ⅰ(演)・1		
計4単位			子どもと環境Ⅰ(演)・2 子どもと言葉Ⅰ(演)・2			
子どもの理解と支援	計12単位 必修	発達心理学(講)・2 子ども家庭福祉論(講)・2	教育心理学(講)・2 特別支援教育の基礎(講)・2 子ども家庭支援論(講)・2	子ども家庭支援の心理学(講)・2		
	計10単位	乳児保育Ⅰ(講)・2 社会福祉論(講)・2	社会的養護Ⅰ(講)・2	子どもの保健(講)・2	子どもの食と栄養(演)・2	
保育技能	1単位 必修	基礎造形(演)・1				
	計5単位	ピアノフォローアップ(演)・1 基礎音楽Ⅱ(演)・1	基礎体育(演)・1 基礎音楽Ⅰ(演)・1	基礎音楽Ⅱ(演)・1		
教育・保育の本質	2単位 必修			保育者論(講)・2		
	2単位			教育方法論(講)・2		
保育内容	計2単位 必修		子どもと環境Ⅱ(演)・1 子どもと言葉Ⅱ(演)・1			
	計5単位		子どもと健康Ⅱ(演)・1 子どもと表現Ⅱ(音楽)(演)・1 子どもと表現Ⅱ(造形)(演)・1	保育特講Ⅰ(演)・1 保育特講Ⅱ(演)・1		
子どもの理解と支援	1単位 必修			子どもの理解と援助(演)・1		
	計11単位		乳児保育Ⅱ(演)・1	特別支援教育・保育演習(演)・2 社会的養護Ⅱ(演)・2	教育相談(演)・1 子どもの健康と安全(演)・1 子育て支援(演)・2 在宅保育(講)・2	
保育技能	計3単位	児童文化(言語表現)(演)・1 絵本の世界Ⅰ(演)・1	絵本の世界Ⅱ(演)・1			
	実習	計17単位	教育実習(事前事後の指導を含む)(実習)	保育実習指導Ⅰ(演) 保育実習Ⅰ(実習) 教育実習(事前事後の指導を含む)(実習)	保育実習指導Ⅰ(演) 保育実習Ⅰ(実習) 保育実習指導Ⅱ(演) 保育実習Ⅱ(実習) 保育実習指導Ⅲ(演) 保育実習Ⅲ(実習) 教育実習(事前事後の指導を含む)(実習)	教育実習(事前事後の指導を含む)(実習)
(4) 総合科目 それまでに修得した理論と実践に基づき、より主体的で実践的・創造的な保育へ発展させる力を身につける。		実践と応用	計2単位 必修		課題研究Ⅰ(演)・1	課題研究Ⅱ(演)・1
	2単位				保育・教職実践演習(幼稚園)(演)・2	

卒業の認定に関する方針 (卒業認定・学位授与の方針、ディプロマ・ポリシー)	
幼児教育保育学科では、人間性豊かで倫理観を備え、多様な課題に対し主体的・自律的に取り組むことができる実践力のある保育者の養成を目指します。そのために、本学の建学の精神、教育理念、教育研究上の目的等に基づき編成した教育課程を通じ、所定の単位を修得することで、次の知識・技能や資質能力を身につけた学生に「短期大学士(幼児教育保育学)」の学位を授与します。	
1. 知識・技能 ・幼児教育・保育に関する幅広い専門的知識および技能を有している。	短期大学士の学位授与
2. 活用能力・自他の理解能力・コミュニケーション能力 ・修得した知識および技能を活用し、実践につなげることができる。 ・内省を通じた自己理解に基づき、一人一人の子どもや保護者に寄り添うことができる。 ・自らの考えを言葉をはじめとする様々な表現方法を用いて伝えながら、他者とコミュニケーションする能力を身につけている。	
3. 論理的思考力・課題解決力・創造力 ・情報や知識を多面的な視点で論理的に分析・整理して捉え、課題解決に向け取り組むことができる。 ・新しい発想を取り入れながら、柔軟に教育・保育を発展させる能力を身につけている。	
4. 自律性・協働性 ・自らの能力を高めるべく、不断に自己研鑽に励むことができる。 ・多様な他者と、円滑に協調・協働しながら課題に取り組むことができる。	

※下線のあるものは主要授業科目であることを示す。

科目群	科目区分	科目ナンバ	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	単位数・選択	学年	春セメ	秋セメ	主要授業科目	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	1. 知識・技能	2. 活用能力・自他の理解能力・コミュニケーション能力	3. 論理的思考力・課題解決力・創造力	4. 自立性・協働性	<SDGsの17のゴールとの関連> 概論:SDGsの概念や考え方を学ぶ ①:貧困をなくそう ②:飢餓をゼロに ③:すべての人に健康と福祉を ④:質の高い教育をみんなに ⑤:ジェンダー平等を実現しよう ⑥:安全な水とトイレを世界中に ⑦:エネルギーをみんなにそしてクリーンに ⑧:働きがいも経済成長も ⑨:産業と技術革新の基盤をつくろう ⑩:人や国の不平等をなくそう ⑪:住み続けられるまちづくりを ⑫:つくる責任つかう責任 ⑬:気候変動に具体的な対策を ⑭:海の豊かさを守ろう ⑮:陸の豊かさを守ろう ⑯:平和と公正をすべての人に ⑰:パートナーシップで目標を達成しよう	
																			幼児教育・保育に関する幅広い専門的知識および技能を有している。
教養	ML100	心の充実Ⅰ	講義	2	1	○	○	○	○	常磐短期大学で学ぶということ	常磐短期大学の学生として、建学の精神を理解すると共に、大学での学びの意味を理解し、適切に行動を起こすことができるようになることを目指す。	(1) 常磐短期大学の建学の精神について説明することができる。 (2) 本学で学ぶことの意味と方法を説明することができる。 (3) 学生としての社会的役割を理解し、適切に行動することができる。	◎	●	◎	◎	◎	④	
	ML101	心の充実Ⅱ	演習B	1	1	○	○	○	○	フィールドを通じた実践的な学び	保育者に求められる基礎的な資質能力として、社会人基礎力の養成を目的とする科目である。地域の保育施設等における活動を通じ、主体性や、交渉・書類作成等のスキルの獲得を目指す。	(1) 社会で生きていくために必要な基礎的な知識・技能を身につけることができる。 (2) 準備から実践終了までのプロセスを、主体的かつ計画的に進めることができる。 (3) 保育の仕事について、内省を通して理解を深めることができる。	●	◎	◎	◎	◎	⑯	
	ML102	歴史と文化	講義	2	1	○	○	○	○	歴史的な思考を身につける	人類が築いてきた文化を含む現代社会の諸事象を、歴史的な観点から捉えることを目指す。	(1) 歴史に関する基本的な知識を身につけることができる。 (2) 歴史的な認識能力を養うことができる。	◎	●	◎	◎	◎	⑩⑯	
	ML103	社会と人間	講義	2	1	○	○	○	○	社会についての理解を充実させる	我々が身を置いている現在の社会についての理解を促し、社会の骨格となっている制度や仕組みについて考えとともに現在の社会課題を捉えられるようになることを目指す。	(1) 社会の骨格となっている制度や仕組みについて興味を持ち考えることができる。 (2) 社会における、現在の課題を理解することができる。	◎	●	◎	◎	◎	①⑤⑩⑯	
	ML104	情報と科学	講義	2	1	○	○	○	○	サイエンス	人類の進化にとって重要な役割を果たしてきた科学について、その考え方を理解し、データに基づきながら物事を系統立てて考えることの大切さを理解する。	(1) 科学の考え方を理解することができる。 (2) データに基づきながら物事を系統立てて説明することができる。	◎	●	◎	◎	◎	③⑦⑬	
	ML105	国際文化研修	演習A	2	1	○	○	○	○	世界を体験して視野を広げる	海外での短期語学研修を通して、日本と海外の文化や子育てについて違いを理解することや、異言語コミュニケーションについての学びを深めることをねらう。	(1) 日本と海外との文化の違いについて説明することができる。 (2) 英語で日常生活のコミュニケーションをとることができる。 (3) 海外の子育てと日本の子育てを比較・考察することができる。	◎	●	◎	◎	◎	⑩⑯⑰	
基礎科目群	BS100	日本国憲法	講義	2	1	○	○	○	○	保育者と人権/法/制度	日本国憲法および関連の諸法令の理念と内容を学ぶことを通じて、子どもの人権を守るための法的・制度的な裏付け、ならびにそれを受けた保育者の正しいあり方について理解する。	(1) 基本的人権の理念について理解することができる。 (2) 子どもの人権について理解することができる。 (3) 幼児教育・保育に関わる法律・制度について理解することができる。	◎	●	◎	◎	◎	⑤⑯	
	BS101	日本語表現	講義	2	1	○	○	○	○	日本語の基礎知識と表現技法	現代の保育者に求められる他者との適切なコミュニケーションを可能とするべく、日本語についてそのあり方・表現の方法を広く学び、保育者/社会人としてふさわしい言葉の使い方を学習・習得する。	(1) 日本語についての基本的なあり方を理解することができる。 (2) 日本語の基本的で適切な表現方法を身につけ、使用することができる。 (3) 敬語の適切な用法が定着し、使用することができる。	◎	●	◎	◎	◎	④	
	BS102	コンピュータ演習Ⅰ	演習B	1	1	○	○	○	○	IT機器の実習-基本操作と情報の活用	近年ますます重要視されているIT機器を利用した教育の実施を可能とするべく、インターネットによる情報の収集・整理を含めた、教育活動に向けた基礎的な能力を、体験的に習得する。	(1) PCの基本操作を習得し、操作することができる。 (2) PCを使用して情報を収集し、整理することができる。 (3) 文書作成ソフトの基本操作を習得し、操作することができる。	●	◎	◎	◎	◎	◎	
	BS103	コンピュータ演習Ⅱ	演習B	1	1	○	○	○	○	IT機器の実習-資料作成方法の習得	コンピュータ演習Ⅰで学んだPCの基本操作を踏まえ、保育者の営みの中で必須となるIT機器を利用した資料作成やコミュニケーションおよびプレゼンテーションの技法について体験的に習得する。	(1) IT機器を利用して、指導案等の資料作成の方法を習得し、作成することができる。 (2) IT機器を利用したプレゼンテーションの技法を身につけ、資料を作成することができる。 (3) ITを活用したコミュニケーションの基本を理解することができる。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	BS104	英会話Ⅰ	演習B	1	1	○	○	○	○	国際理解を推進する教育者をめざす	本科目では、グローバル化の進展の中で英語について理解を深め、他国の文化等にも理解を深める素養を身につけること、簡易な表現の英語を身につけることを目的とする。	(1) 他国の文化・言語について多様性があることを理解することができる。 (2) 日常の事柄について英語で表現してみようとする態度を身につけることができる。 (3) 教育者として、今日の英語の重要性を理解することができる。	◎	●	◎	◎	◎	◎	④
	BS105	英会話Ⅱ	演習B	1	1	○	○	○	○	国際理解を推進する教育者をめざす	本科目では、グローバル化の進展の中で、簡易な英語での表現を身につけたうえで、子どもにも英語での働きかけができるための基礎的な力を身につけることを目的とする。	(1) 他国の文化・言語について多様性があることを理解することができる。 (2) 日常の事柄について、英語で表現することができる。 (3) 教育者として、英語で子どもに働きかけることができる。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	④
	BS106	身体活動論	講義	2	1	○	○	○	○	健康づくりと運動	健康に過ごすための能力「健康力」をアップさせるために、健康に関する問題を認識し、どのように生活すべきかを主に「運動」という面から理解し、実践できる力を身につける。	(1) 健康に関する課題と健康力をアップさせる方法を理解することができる。 (2) 健康力アップのために、自分の生活や体力を見直し、改善する方法を考案することができる。 (3) 子どもと一緒に体を動かさせられるよう、子どもの運動遊びについて実践することができる。	●	◎	◎	◎	◎	◎	③
	BS200	総合体育	実技	1	2	○	○	○	○	健康づくりと運動	体力の維持向上を図ると共に、健康の保持・増進につなげるため、そして、生涯を通してスポーツに親しむ機会へとつなげるため、自分の興味のある運動・スポーツについてその方法や技術を身につける。	(1) 仲間と協力しながら、積極的に活動に参加し、運動を楽しむことができる。 (2) 各クラスで設定されたスポーツ活動を実施する方法を理解することができる。 (3) 各クラスで設定されたスポーツ活動に求められる技能を身につけ、実践することができる。	●	◎	◎	◎	◎	◎	③
	教育・保育の本質	EC110	教育原理	講義	2	1	○	○	○	○	教育の目的・意義についての、基本的原則や理論的基礎を学ぶ	教育に携わるものに求められる教育という営みの本質、その歴史と思想、制度と経営、教育の目的、内容、方法の基礎と現代的動向について基礎的多面的に学ぶ。特に、子どもの教育に重点を置いて学ぶ。	(1) 教育の理念と本質、その歴史と思想について理解することができる。 (2) 教育制度と学校経営の基礎について理解することができる。 (3) 教育の目的、内容、方法の基礎と現代的動向について理解することができる。	●	◎	◎	◎	◎	◎
EC120		保育原理	講義	2	1	○	○	○	○	「子ども理解」「保育制度」「保育内容」等、保育に関する様々な分野について、広い視点から捉え、多様な考えに触れる機会とする。そして、それらがどのように関連しているかを学び、保育学を習得するための土台を形成する。	(1) 保育に関する基礎的な知識・技術を理解することができる。 (2) 保育や子ども・保護者支援等について、多様な捉え方、考え方ができる。 (3) 「保育者になること」について、自分なりに意識を高め、自己研鑽に努めることができる。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	④	
EC111		教育課程論	講義	2	1	○	○	○	○	子どもの理解に基づく教育課程・全体的な計画を理解する	教育課程を編成するために重要な事項として、入園から修了までの長期的な見通し、子どもの発達状況、教育・保育施設や地域の実態、子どもの理解に基づく保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)等について身につけることを目指す。	(1) 教育課程・全体的な計画の基礎を理解することができる。 (2) 子どもの理解に基づく保育の課程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)について理解することができる。 (3) カリキュラム・マネジメントの重要性を理解することができる。	●	◎	◎	◎	◎	◎	④
EC210		教育制度・学校経営論	講義	2	2	○	○	○	○	幼児教育に関する制度と学校経営を理解する	現代の社会の状況を理解し、その変化が今後の幼児教育の在り方とどの様に結びついているのか理解すること、教育行政機関の目的とその実現についての経営的視点、地域との連携・危機管理を含む学校安全の目的と具体的な取り組みについて理解することを目指す。	(1) 子どもの生活の変化を踏まえた教育上の課題を理解することができる。 (2) 幼児教育の制度について、その理念と仕組みを理解することができる。 (3) 子どもの安全にまつわる対応方法の必要性について理解することができる。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	④⑤⑩⑯

科目群	科目区分	科目ナンバ	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	単位数・選択	学年	春セメ	秋セメ	主要授業科目	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	学修成果 (学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項)				<SDGsの17のゴールとの関連> 概論:SDGsの概念や考え方を学ぶ ①:貧困をなくそう ②:飢餓をゼロに ③:すべての人に健康と福祉を ④:質の高い教育をみんなに ⑤:ジェンダー平等を実現しよう ⑥:安全な水とトイレを世界中に ⑦:エネルギーをみんなにそしてクリーンに ⑧:働きがいも経済成長も ⑨:産業と技術革新の基盤をつくろう ⑩:人や国の不平等をなくそう ⑪:住み続けられるまちづくりを ⑫:つくる責任つかう責任 ⑬:気候変動に具体的な対策を ⑭:海の豊かさを守ろう ⑮:陸の豊かさを守ろう ⑯:平和と公正をすべての人に ⑰:パートナーシップで目標を達成しよう
														1. 知識・技能	2. 活用能力・自他の理解能力・コミュニケーション能力	3. 論理的思考力・課題解決力・創造力	4. 自立性・協働性	
保育内容		EC 260	保育内容総論	演習A	2		2	○	○		園生活全体を通して総合的に指導するという考え方を理解し、教育・保育の環境を構成し実践するために必要な知識を身につける。具体的な子どもの姿と関連付けながら遊びの中でどのような経験をしているかについて学び、5領域のねらい及び内容とのつながりを理解することを旨とする。	(1) 園生活全体を通じた総合的な指導について理解することができる。 (2) 保育の基本的な考え方を踏まえた保育内容の展開について理解することができる。 (3) 遊びを通して総合的に育つことを理解し、実践するために必要な知識を身につけることができる。	○	●	◎	◎	④	
		CC 260	子どもと健康 I	演習B	1		1	○	○		子どもの健康に関する保育者の関わり方について学ぶ	領域「健康」を踏まえ、健康な心と体を持った子どもを育てるために、そして、自ら健康で安全な生活をつくり出すことができる子どもを育てるために、保育者として必要な知識や環境設定、関わり方等について学修を進めていく。	(1) 幼児期の健康課題と健康の発達の意味を理解することができる。 (2) 幼児期の体の諸機能の発達と生活習慣の形成を理解することができる。 (3) 安全な生活と怪我や病気の予防について理解することができる。 (4) 幼児期の運動発達の特徴と意義を理解することができる。	●	◎	○	○	③
		CC 261	子どもと環境 I	演習A	2		1	○	○		幼児期における「学びの芽生え」について学ぶ	領域「環境」の指導で必要となる感性を養い、教育内容に関する知識・技能を身につける。特に子どもを取り巻く環境と現代的課題、子どもと身近な環境との関わりについて学び、幼児期の思考・科学的概念の発達を理解する。	(1) 幼児を取り巻く環境と幼児の発達について理解することができる。 (2) 乳幼児期の認知的発達の特徴を説明することができる。 (3) 環境との関わりにおける数量・図形、標識・文字などの関わり方を説明することができる。	◎	◎	○	○	①②⑥⑦⑪⑬⑭⑮
		CC 262	子どもと言葉 I	演習A	2		1	○	○		子どもと「言葉」の世界 —子どもと言葉に関する知識・理解・実践について学ぶ—	領域「言葉」の指導の基盤となる基本的な知識を身につける。そのために、言葉のもつ意義や機能を理解した上で、子どもの言葉や言葉に対する感覚を育てる実践や教材について、児童文化財を通して学ぶ。	(1)「言葉」の意義や機能を理解し、言葉と子どもの発達との関わりを理解することができる。 (2)子どもが言葉の感覚を豊かにし、言葉の楽しさに気づく実践について、児童文化財を通して理解することができる。 (3)子どもの言葉を育てる児童文化財の意義を理解し、想像する楽しさを広げる実践を展開することができる。	○	◎	◎	○	④
		CC 263	子どもと表現 I	演習B	1		1	○	○		子どもの表現を豊かに引き出すために	領域「表現」のねらいと内容を確認し、子どもの表現の成長を支えるための基礎的な理念、方法を身につける。造形分野では子どもの造形活動の発達段階について学び、子どもの造形活動を支援するための基盤となる能力を養う。音楽分野では乳幼児の音楽的発達について理解し、子どもと音への関わりについて考察を深める。	(1) 領域「表現」のねらいと内容を理解することができる。 (2) 子どもの表現の成長過程や発達の特徴について説明することができる。 (3) 子どもの表現を援助するための理念や方法について説明することができる。	●	○	○	○	
専門科目群		US 230	教育心理学	講義	2		1	○	○		子どもの学習と適応について心理学的観点から学ぶ	子どもの学習や社会的適応に関わる基礎的知識(条件づけ、動機づけ、パーソナリティ、知能、教育評価など)を学び、それらを支援する方法について、発達メカニズムを踏まえて考えられるようになることを旨とする。	(1) 子どもの学習や社会的適応に関わる基礎的知識を身につけ、それらを支援する方法について、発達メカニズムを踏まえて考えられるようになることを旨とする。 (2) 子どもの学習を支援することの重要性と基本的な方法について理解することができる。 (3) 子どもの学習や適応について発達の特徴と関連付けて考えることができる。	●	○	◎	○	④
		US 130	発達心理学	講義	2		1	○	○		子どもの発達過程および特徴について心理学的観点から学ぶ	子どもの発達に関わる心理学の理論を学び、発達を捉える視点を身につけること、運動・言語・認知・社会性の発達について基本的な知識を習得し、発達を促すために望ましい関わりについて考えることを旨とする。	(1) 子どもの心身の発達のおおまかな過程と特徴を理解することができる。 (2) 子どもの発達に関する代表的な理論の基礎を理解することができる。 (3) 子どもを発達的に理解して関わることの重要性を理解することができる。	●	○	◎	○	④
		US 231	子ども家庭支援の心理学	講義	2		2	○	○		子どもの家庭を支援するために必要な知識と考え方を身につける	生涯発達に関する心理学の基礎的な知識、親子関係や家族関係が子どもに与える影響、子どもの精神保健とその課題等について理解することを通して、保育者が家庭に対してできる支援について考えていく。	(1) 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を理解することができる。 (2) 親子関係や家族関係が子どもに与える影響について説明することができる。 (3) 子どもの精神保健とその課題について基本的な理解ができる。 (4) 保育者として子どもの家庭に対してできる支援について、いくつか挙げることができる。	●	◎	○	○	③④⑤⑯
		US 120	乳児保育 I	講義	2		1	○	○		乳児保育の意義と基本的な内容について理解する	「乳児保育」すなわち3歳未満児の保育の意義・目的について理解する。また保育所や乳児院など多様な保育現場の現状、乳児の保育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について学び、職員間の連携や保護者・地域との関係機関との連携についても理解する。	(1) 乳児保育の意義と目的について説明することができる。 (2) 多様な保育の場における乳児保育の現状と課題を理解することができる。 (3) 3歳未満児の保育内容について理解することができる。	◎	○	○	○	①③④⑩
		US 240	子どもの食と栄養	演習A	2		2	○	○		子どもの食に関する知識を深め、食育について考える	子どもの食生活や栄養に関する基本的知識を習得し、発育・発達との関連について理解する。また、保育における食育の意義や食生活指導、アレルギー等の特別な配慮を要する子どもへの対応等についても理解し、実践できるよう学修を進めていく。	(1) 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を理解することができる。 (2) 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解することができる。 (3) 保育における食育の意義・目的、基本的考え方、その内容等について理解することができる。 (4) アレルギー等、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解することができる。	◎	◎	○	○	③
		US 241	子どもの保健	講義	2		2	○	○		子どものための保健活動について理解する	子どもが心身共に健康に過ごしていくために、子どもの発育や発達の特徴、および疾病やその予防法について理解する。また、子どもの健康状態を把握し、早期に不調に気づき、適切な対応ができるようになるよう学修を進めていく。	(1) 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義について理解することができる。 (2) 子どもの身体的な発育・発達と保健について理解することができる。 (3) 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解することができる。 (4) 子どもの疾病とその予防法および他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解することができる。	◎	○	◎	○	③
		US 150	社会福祉論	講義	2		1	○	○		「社会福祉」の意義を理解し、課題について考える	現代社会における「社会福祉」の意義と歴史の変遷、制度や実施体系について解説する。また、社会福祉や子ども家庭福祉における人権や家庭支援を理解する視点を習得する。あわせて、社会福祉の動向や今日の課題について考察していく。	(1) 社会福祉の意義について説明することができる。 (2) 社会福祉の制度について説明することができる。 (3) 社会福祉の動向と課題について説明することができる。	◎	○	◎	○	①②③⑤⑩⑯
		US 151	子ども家庭福祉論	講義	2		1	○	○		保育の専門性をいかした子どもと子育て家庭の福祉について学ぶ	近年多様化・複雑化する子どもや子育て家庭に関する課題に対し、保育者として対応できるよう、諸問題の現状と課題、子ども家庭福祉の意義、子どもの人権擁護、子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。	(1) 現代日本が直面する児童問題の内容と背景を説明することができる。 (2) 当該分野で提供される施策と福祉サービスの概要を説明することができる。 (3) 「子どもの権利」について説明することができる。	●	◎	◎	○	①②③⑩⑯
		US 152	社会的養護 I	講義	2		1	○	○		「社会的養護」の意義を理解し、子どもの自立支援について考える	社会的養護の歴史の変遷や意義について解説し、更に社会的養護の制度や実施体系、家庭に代わって支援にあたる児童福祉施設や里親制度、児童虐待の背景や被害児の行動等について学ぶ。子どもの最善の利益のための自立支援や権利擁護について理解を深めていく。	(1) 社会的養護の意義について説明することができる。 (2) 社会的養護の対象や形態、関係する専門職について説明することができる。 (3) 社会的養護の現状と課題について説明することができる。	◎	○	◎	○	①③⑯

科目群	科目区分	科目ナンバ	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	単位数・選択	学年	春セメ	秋セメ	主要授業科目	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	1. 知識・技能	2. 活用能力・自他の理解能力・コミュニケーション能力	3. 論理的思考力・課題解決力・創造力	4. 自立性・協働性	<SDGsの17のゴールとの関連> 概論:SDGsの概念や考え方を学ぶ ①:貧困をなくそう ②:飢餓をゼロに ③:すべての人に健康と福祉を ④:質の高い教育をみんなに ⑤:ジェンダー平等を実現しよう ⑥:安全な水とトイレを世界中に ⑦:エネルギーをみんなにそしてクリーンに ⑧:働きがいも経済成長も ⑨:産業と技術革新の基盤をつくろう ⑩:人や国の不平等をなくそう ⑪:住み続けられるまちづくりを ⑫:つくる責任つかう責任 ⑬:気候変動に具体的な対策を ⑭:海の豊かさを守ろう ⑮:陸の豊かさを守ろう ⑯:平和と公正をすべての人に ⑰:パートナーシップで目標を達成しよう
保育技能	US	110	特別支援教育の基礎	講義	2	1	1	○	○	特別な配慮を要する子どもとその支援について理解する	さまざまな障害やその他の特別な配慮を要する子どもについて学び、その成長発達を支援する制度と具体的な保育の方法を理解する。また、保護者や家庭に対する支援や、地域の保健・医療・教育・福祉の連携と生涯を見据えた支援の重要性について理解する。	(1) 様々な障害やその他の特別な配慮を要する子どもについて理解を深めることができる。 (2) 特別支援教育および障害児保育の制度と、共生社会構築に向けたその意義を理解することができる。 (3) 保護者支援や他機関との連携の意義を理解することができる。	●	◎	○		◎	④⑩
	US	350	子ども家庭支援論	講義	2	1	1	○	○	子どもを育む場である家庭を支援することについて学ぶ	社会の変化に伴い子育て家庭に対する支援の重要性が増す中、保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と方法、地域の社会資源の活用と連携、子育て支援施策等について学び、多様なニーズに対応できる知識と態度を身につける。	(1) 子育てにおける家庭の意義と機能を説明することができる。 (2) 子育て家庭の現状・課題と支援の重要性を社会状況と関連させて説明することができる。 (3) 支援の施策と地域資源、サービスについて説明することができる。	●	○	◎		◎	⑤⑩
	CS	170	ピアノフォローアップ	演習B	1	1	1	○		ピアノの基礎技能を学ぶ	保育者に必要な技能の一つであるピアノの基礎技能を身につける。様々な伴奏パターンを身につけ演奏する力をつける。楽譜の読み方を学ぶための基本的な楽典も扱う。	(1) ピアノの基礎技能を身につけることができる。 (2) 基礎的な楽譜の読み方を身につけることができる。 (3) 子どものうたのレパートリーを増やすことができる。	◎				◎	④
	CS	171	基礎音楽A I	演習B	1	1	1	○		簡易伴奏によるピアノ弾き歌いを学ぶ	保育者に必要な技能の一つであるピアノ弾き歌いの基礎技能を身につける。園の生活の歌のレパートリーを増やし、簡易な伴奏で弾き歌いできるようにする。	(1) ピアノ弾き歌いの基礎技能を身につけることができる。 (2) 簡易な伴奏でピアノ弾き歌いができる。 (3) 子どものうたの弾き歌いのレパートリーを増やすことができる。	◎				◎	④
	CS	172	基礎音楽A II	演習B	1	2	○			簡易伴奏によるピアノ弾き歌いを学ぶ	ピアノ弾き歌いのための基礎技能を習得する。子どものうたの歌詞の意味や曲の背景を理解しながらレパートリーをさらに充実させる。	(1) ピアノ弾き歌いの基礎技能を身につけることができる。 (2) 歌詞の意味を理解し、歌を中心としたピアノ弾き歌いができる。 (3) 子どものうたの弾き歌いのレパートリーを増やすことができる。	◎				◎	④
	CS	173	基礎音楽B	演習B	1	1	1	○		子どものうたで自然な発声法を身につける	保育者に必要な技能の一つである歌唱法の基礎を身につける。わらべうた、唱歌、童謡、あそびうたなどを教材とし、園の生活の歌のレパートリーを増やすとともに、喉に無理のない自然な発声法で歌えるようにする。	(1) 自然な発声法・歌唱法の基礎を身につけることができる。 (2) 歌詞の意味や背景を理解して歌うことができる。 (3) 子どものうたのレパートリーを増やすことができる。	◎		●		◎	④
	CS	174	基礎造形	演習B	1	1	1	○		造形の基礎を学ぶ -素材の知識と基礎技能-	保育者として子どもたちの表現活動(造形表現)を支援できる能力を獲得するために、平面・立体制作体験を通じ、素材の特性への知識や基礎的造形技術を習得することを旨とする。	(1) 造形に用いられる素材の特性について理解することができる。 (2) 造形の基礎的技術を習得し、表現に活かすことができる。 (3) 課題に対し真摯に取り組み、イメージを具現化することができる。	●		◎			
CS	175	基礎体育	演習B	1	1	1	○		自身の体力を高め、子どもの運動について理解を深める	実技を行う中で体力の維持向上を図ると共に、「子どもの運動遊びに関連したプログラム」で子どもが行う基本的な運動を実際に行い、理解を深めていく。	(1) 子どもが行う基本的な運動を実践することができる。 (2) リズムに合わせた体の動きや身体表現の基礎を習得し、創作することができる。 (3) 運動を行う中で、子どもたちに運動を指導することを意識し、幼児の身体活動に携わる際の基本的留意点について理解することができる。	●		○		○	③	
教育・保育の本質	EC	320	保育者論	講義	2	2	○	○		保育者の専門性を理解し、資質を身につける	子どもの発達や周囲の状況など様々な事柄を視野に入れながら、保育者の役割、倫理、連携、協働など、職務に当たる専門家としての保育者の在り方を考えていく。それらの学びを通して保育の質と保育者としての専門性の向上を目指す。	(1) 保育者の役割を理解することができる。 (2) 保育者の専門性について理解することができる。 (3) 保育者の連携・協働について理解することができる。	●	◎	○		◎	④⑧
	EC	310	教育方法論	講義	2	2	○			これからの未来を見据えた教育方法について考える	これからの社会を生きていくうえで、子供たちに必要となる資質能力を育成するために、これまでの教育の方法について学ぶとともに子どもたちの情報活用能力を高める指導法について理解することを目指す。	(1) 教育方法の基礎理論を理解することができる。 (2) 育みたい資質・能力と幼児理解に基づいた評価の基礎的な考え方について理解することができる。 (3) 幼児の体験との関連を考慮しながら情報機器を活用し、効果的に教材等を作成・提示することができる。	◎	◎	○		◎	④⑩⑯
保育内容	CC	360	子どもと健康 II	演習B	1	2	○			子どもの健康について、運動という観点から保育者の関わり方について学ぶ	領域「健康」のねらいと内容及び内容の取り扱いについて理解する。さらに、運動遊びに関する指導案の作成や模擬保育を通して、適切な指導や援助ができる実践力を身につけられるよう学修を進めていく。	(1) 領域「健康」のねらい及び内容を理解することができる。 (2) 領域「健康」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身につけることができる。 (3) 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身につけることができる。	◎	◎			◎	③④
	CC	361	子どもと環境 II (人間関係を含む)	演習B	1	2	○			身近な環境を取り入れた保育を構想し、計画する力を身につける	領域「環境」のねらい及び内容について理解を深める。子どもの発達に即して、深い学びが実現する過程を踏まえて、具体的な指導場面を想定した保育を構想し、指導方法を身に付ける。また「環境を通じた保育」の意味を理解し、適切な環境構成の技術を学ぶ。さらに領域「人間関係」のねらい及び内容にも部分的に触れ、他者との関係や集団との関係の中で幼児期の人と関わる力が育つことを理解する。	(1) 幼児の環境との関わり、またそれを生活に取り入れていくことについて理解することができる。 (2) 具体的な保育を想定した指導案をつくることができる。 (3) 様々な教材や情報機器の活用方法を理解し、保育の構想に活かすことができる。	●	◎			◎	①②⑥⑦⑪⑫⑬⑭⑮
	CC	362	子どもと言葉 II	演習B	1	2	○			乳幼児の言葉の発達を理解し、それを支える保育者の役割について、実践的・具体的に学ぶ	乳幼児の言葉の発達過程、援助や環境構成について、視聴覚教材や様々な教材を通して実践的に学習する。また、子どもの豊かな言葉を育むための保育者の役割について理解し、生活の中で意識できるようになる。	(1) 乳幼児の言葉の発達過程とそれに適した援助について理解することができる。 (2) 子どもの言葉を育む環境構成について理解し、実践することができる。 (3) 「環境としての保育者」の意味を理解し、生活の中で意識することができる。	●	◎			◎	④
	CC	364	子どもと表現 II (音楽)	演習B	1	2	○			子どもの豊かな表現力を養うための手立てや意義を学ぶ	「子どもと表現 I」の内容をさらに発展させ、より実践的な音楽表現活動を行う。サウンドスケープ、イメージを大切に表現あそび、想像力を膨らませる楽器あそびなど、子どもの豊かな表現力を養うための手立てや意義を学ぶ。	(1) 領域「表現」のねらいと内容を理解することができる。 (2) 領域「表現」のねらいと内容を踏まえた実践ができる。 (3) 子どもの豊かな表現力を養うための手立てや意義を説明することができる。	◎	●			◎	
	CC	363	子どもと表現 II (造形)	演習B	1	2	○			子どもの造形活動を支援できる実践力を身につける	「子どもと表現 I」で学んだ知識を基盤とし、領域「表現」のねらい及び内容について、その造形的側面から理解を深めていく。また、具体的な場面を想定した活動を通じ、保育の現場で造形表現活動の環境を構成し保育者として支援できる実践的力の獲得を目指す。	(1) 領域「表現」のねらいと内容を造形的側面から理解することができる。 (2) 素材の選択や技法の工夫による、表現の可能性を理解することができる。 (3) 他者と協働し、子どもの造形表現活動の環境を構成することができる。	○		◎		◎	
CC	365	保育特講 I	演習B	1	2	○			人間関係・環境・言葉領域におけるより高い保育実践力を身につける	人間関係・環境・言葉の中から学生が興味がある領域の一つを選択し、時代の変化に応じた教育・保育の内容と方法を掘り下げます。実践力を高め、教育・保育を柔軟に発展させる力を身につけることを目指します。	(1) 選択した領域を通して、先進的な保育内容・方法を理解することができる。 (2) 自分の目指す保育を構想することができる。 (3) 目指す保育を実践することができる。		◎	○		◎		

科目群	科目区分	科目ナンバ	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	単位数・選択	学年	春セメ	秋セメ	主要授業科目	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	1. 知識・技能	2. 活用能力・自他の理解能力・コミュニケーション能力	3. 論理的思考力・課題解決力・創造力	4. 自立性・協働性	<SDGsの17のゴールとの関連> 概論:SDGsの概念や考え方を学ぶ ①:貧困をなくそう ②:飢餓をゼロに ③:すべての人に健康と福祉を ④:質の高い教育をみんなに ⑤:ジェンダー平等を実現しよう ⑥:安全な水とトイレを世界中に ⑦:エネルギーをみんなにそしてクリーンに ⑧:働きがいも経済成長も ⑨:産業と技術革新の基盤をつくろう ⑩:人や国の不平等をなくそう ⑪:住み続けられるまちづくりを ⑫:つくる責任つかう責任 ⑬:気候変動に具体的な対策を ⑭:海の豊かさを守ろう ⑮:陸の豊かさを守ろう ⑯:平和と公正をすべての人に ⑰:パートナーシップで目標を達成しよう
子どもの理解と支援	CC	366	保育特講Ⅱ	演習B	1	2			○		運動・造形・音楽分野におけるより高い保育実践力を身につける	運動・造形・音楽の中から学生が興味がある領域(分野)の一つを選択し、時代の変化に応じた教育・保育の内容と方法を掘り下げます。実践力を高め、教育・保育を柔軟に発展させる力を身につけることを目指します。	(1) 選択した領域(分野)を通して、先進的な保育内容・方法を理解することができる。 (2) 自分の目指す保育を構想することができる。 (3) 目指す保育を実践することができる。	◎	○	◎		
	US	330	子どもの理解と援助	演習B	1	2			○	○	子ども一人ひとりの心身の発達や学びを把握することの意義を理解し、そのための様々な視点と具体的な方法(特に観察法)について事例等を通して学ぶ。子どもの理解に基づいて支援しようとする姿勢と方法を身につけることを目指す。	子ども一人ひとりの心身の発達や学びを把握して関わることの意義を理解することができる。 (2) 子どもの視点・保護者の視点・保育者の視点から、子どもを理解することができる。 (3) 子どもを理解し援助するための具体的な方法を考えることができる。	◎	◎	◎	④⑬		
	US	331	教育相談	演習B	1	2			○		子どもの発達の状況に即しつつ、個々の心理的特性や教育的課題を適切に捉え、子どもと保護者を支援できる保育者になることを目指す。そのために必要な基礎的知識(カウンセリングの意義・理論・技法や連携の方法等)を身につけていく。	(1) 子どもの発達状況に即した支援の重要性を理解することができる。 (2) カウンセリングに関する基礎的な知識を身に付けることができる。 (3) 教育相談を行う上で必要な連携の内容について説明することができる。	◎	○	○	④		
	US	310	特別支援教育・保育演習	演習A	2	2			○	○	障害のある子どもが育ちあうインクルーシブ保育を実践的に学ぶ	障害の概要、インクルージョンなど障害児保育を支える理念などの歴史的変遷を理解した上で、具体的な身体・知的・発達障害等の理解と援助方法、障害児その他の特別な配慮を要する子どもの指導計画、家庭や関係機関との連携について理解する。	(1) 発達障害、知的障害、身体障害について概ね説明することができる。 (2) インクルーシブ保育の現状を説明することができる。 (3) 特別な支援を要する子どもの援助方法を理解することができる。	◎	◎	○	④⑩	
	US	220	乳児保育Ⅱ	演習B	1	1			○		乳児の発育・発達の過程や特性を踏まえ、援助や関わりが実践できる力を身につける	3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりを基本的な考え方について理解する。	(1) 養護と教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について具体的に理解することができる。 (2) 乳児保育における配慮の実践について、具体的に理解することができる。 (3) 乳児保育における計画の作成について具体的に理解することができる。	◎	○	○	③④	
	US	340	子どもの健康と安全	演習B	1	2			○		保育における保健的対応について実践的に学ぶ	感染症対策を含めた衛生管理や、アレルギー疾患等への対応、また、子どもの体調不良等に適切に対応するための応急処置や救急生法等、保育における保健的対応ができるよう学修を進めていく。	(1) 保育における感染症対策や衛生管理について具体的に理解することができる。 (2) 子どもの体調不良等に対する適切な対応について、具体的に理解することができる。 (3) 保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解することができる。	◎	◎	○	③	
	US	250	社会的養護Ⅱ	演習A	2	2			○		「社会的養護」の内容について理解し実践的に学ぶ	被虐待児の実質的な受け皿となっている児童養護施設を中心に、施設養護の特性と実際について学ぶ。また、国が推進する家庭養護(里親やファミリーホーム)の実際についても学ぶ。さらに社会的養護における計画・記録・評価、相談援助の方法・技術について知識を深めていく。	(1) 子ども理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について説明することができる。 (2) 施設養護・家庭養護の実際を知り、その課題について理解することができる。 (3) 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解することができる。	◎	◎	◎	①③⑬	
	US	352	子育て支援	演習A	2	2			○		保育現場で求められる子育て支援に関する知識・技術を習得する	保育現場で出会う保護者からの多様なニーズに保育士として対応するために求められる子育て支援に関する知識・技術について、座学のみでなく、視聴覚教材、事例検討、ロールプレイ等を通して、多角度から、かつ、より現場に近い形で学修していく。	(1) 子育て支援に関する知識・技術を身につけることができる。 (2) 親子を取り巻く社会の現状について、広い視野を持ち自分なりに考えることができる。 (3) 様々な子育て支援の在り方について理解し、実践することができる。	◎	◎	○	⑤	
	US	353	在宅保育	講義	2	2			○		在宅訪問保育者として必要な基礎的知識・技能を習得する	ベビーシッターや病児・病後児保育等、少子化社会における子育て支援施策の一つとして、家庭訪問保育は近年ニーズが高まってきている。本科目では、家庭訪問保育者として、乳幼児を家庭等で保育し、また、保護者を支援する知識と技術を習得することを目的とする。	(1) 家庭訪問保育の制度と概要について理解することができる。 (2) 家庭訪問保育者として必要とされる乳幼児の発達や援助について理解することができる。 (3) 家庭訪問保育者として家庭で乳幼児を保育するための知識・技術を身につけることができる。	○	◎	○	③④⑧	
	CS	270	児童文化(言語表現)	演習B	1	1			○		児童文化の受容・理解・創造	子どもを取り巻く環境としての児童文化への理解を深めるとともに、子どもの心身の発達に資するべく生活・遊びを豊かに展開するために必要な知識と技術を、領域「言葉」を中心に、実践的に習得する。	(1) 児童文化の基本的概念・あり方・意義を理解することができる。 (2) 「言葉」領域の児童文化について理解することができる。 (3) 児童文化の展開を自ら実践することができる。	◎	◎	○	④	
保育技能	CS	370	絵本の世界Ⅰ	演習B	1	1			○		絵本に関する知識・技能・感性を身につける	絵本の定義・歴史・特性について学びながら、その多様性について知識と理解を深めることを目指す。また、多種多様な絵本の中から、対象のニーズに応じた絵本を探し出すために必要な技能について学ぶ。	(1) 絵本の特性や体系について理解することができる。 (2) 対象のニーズや発達段階に応じた絵本を選択することができる。 (3) 絵本の多様性について説明することができる。	◎	◎	○	④	
	CS	371	絵本の世界Ⅱ	演習B	1	1			○		絵本に関する知識・技能・感性を身につける	絵本を活用した子育てや教育について学んだ上で、絵本を紹介する技術を多面的・実践的に学ぶ。また、各々で絵本・子どもと関わり活躍している講師から話を聞く中で、地域において絵本を通じたどのような活動ができるかについて検討する。	(1) 絵本を活用した子育て・教育について考えることができる。 (2) 絵本を紹介する技術を身につけ、実践することができる。 (3) 仲間と協力しながら絵本の活動を計画・準備・運営することができる。	◎	◎	○	④	
	CT	380	保育実習Ⅰ	実習B	4	1・2			○		子どもへの理解を深め、保育所・児童福祉施設の機能と保育士の職務について学ぶ	実習施設において、観察や一緒に遊ぶことを通じて、乳幼児の発達を理解したり、生活や遊びなどの一部分を担当し、保育技術を習得したりして、保育士の仕事についてその理解を深める。	(1) 実習生としてふさわしい態度・意欲をもって実習に取り組むことができる。 (2) 観察や一緒に遊ぶことを通じて、子ども理解を深めることができる。 (3) 保育所等児童福祉施設の社会的役割や一日の生活の流れ等、保育士の仕事について理解し、一部分を実践することができる。	◎	◎	◎	④	
実習	CT	381	保育実習指導Ⅰ	演習B	2	1・2			○		保育実習Ⅰの事前および事後指導	保育実習の意義・目的、実習内容を理解した上で自らの実習における課題を明確にするとともに、実習施設を利用・入所する子どもの人権擁護、保育者の職業倫理を理解する。また計画や記録の方法を理解し、総括を行うことで各々の課題と次の目標を明らかにする。	(1) 保育実習の意義・目的・内容を理解することができる。 (2) 実習施設を利用・入所している子どもの人権擁護、保育者の倫理を理解することができる。 (3) 実習の計画や記録の方法を理解し自らの課題を明確化することができる。	◎	◎	◎	③⑩	
	CT	382	保育実習Ⅱ	実習B	2	2			○		保育士の仕事を総合的に理解し、実践する力を習得する	「保育実習Ⅰ」の内容に加え、家庭や地域との連携、特別な配慮を必要とする子どもや保護者への支援等も含めて、保育士の仕事を総合的に理解し、現場で実践できる力を身につける。	(1) 保育者としてふさわしい態度・意欲をもって実習に取り組むことができる。 (2) 保育士の仕事を総合的に理解し、保育士の助けを得ながら実践することができる。 (3) 保育所における保護者支援及び地域との連携について理解することができる。	◎	◎	◎	④	
	CT	383	保育実習指導Ⅱ	演習A	1	2			○		「保育実習Ⅱ」に必要な内容を習得する	「保育実習Ⅰ」で得た反省や課題を踏まえ、より実践的・総合的に保育について学習し、現場で実践できる力をつける。	(1) 保育実習Ⅰの反省を踏まえた課題を明確に持ち、課題の克服に努めることができる。 (2) 子どもの興味や発達を考慮して保育教材を選択し、立案し、実践することができる。 (3) 実習の計画や記録の方法を理解し、適切に行うことができる。	◎	◎	◎		

科目群	科目区分	科目ナンバ	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	単位数・選択	学年	春セメ	秋セメ	主要授業科目	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	1. 知識・技能	2. 活用能力・自他の理解能力・コミュニケーション能力	3. 論理的思考力・課題解決力・創造力	4. 自立性・協働性	<SDGsの17のゴールとの関連> 概論:SDGsの概念や考え方を学ぶ ①:貧困をなくそう ②:飢餓をゼロに ③:すべての人に健康と福祉を ④:質の高い教育をみんなに ⑤:ジェンダー平等を実現しよう ⑥:安全な水とトイレを世界中に ⑦:エネルギーをみんなにそしてクリーンに ⑧:働きがいも経済成長も ⑨:産業と技術革新の基盤をつくろう ⑩:人や国の不平等をなくそう ⑪:住み続けられるまちづくりを ⑫:つくる責任つかう責任 ⑬:気候変動に具体的な対策を ⑭:海の豊かさを守ろう ⑮:陸の豊かさを守ろう ⑯:平和と公正をすべての人に ⑰:パートナーシップで目標を達成しよう
総合科目	実践と応用	CT 384	保育実習Ⅲ	実習B	2	2	○			保育所以外の児童福祉施設での実習	既に学んだ教科目や実習の経験を踏まえ、保育所以外の児童福祉施設での実習を重ねる。実習での実践を通して、多様な背景をもつ子どもを理解し受け入れ対応する態度や、知識・技術を身につけ、地域との関わりや他職種との連携についても体験的に学ぶ。	(1) ソーシャルワーク実践を通して施設の実践的役割を理解することができる。 (2) 施設保育士の専門性について説明することができる。 (3) 多様な背景を持つ子どもを理解し受け入れ対応する態度を身につけることができる。	●	○	◎		③⑩	
		CT 385	保育実習指導Ⅲ	演習A	1	2	○			保育実習Ⅲの事前および事後指導	保育所以外の児童福祉施設で行う実習の意義と目的を理解し、保育者としての総合的な学びが得られるよう、子ども・利用者に応じた適切な関わり、計画・観察・記録等の具体的な実習の方法を学ぶ。また事後に総括を行い、自己の課題を明確化する。	(1) 保育実習Ⅰでの経験を踏まえた保育実習Ⅲの意義・目的・内容を理解し、説明することができる。 (2) 実習施設を利用・入所している子どもの人権擁護、保育者の倫理を理解し、説明することができる。 (3) 保育者としての総合的な学びが得られるよう、実習計画を策定することができる。	●	○	◎		③⑩	
		CT 386	教育実習(事前事後の指導を含む)	実習A	5	1・2	○	○		子どもとのかかわりを通して、保育者としての専門性と実践力を身につける	既に学んだ理論や指導方法等を基礎に、子どもと直接触れ合う生活の中から子どもの発達に即した保育の在り方や幼児理解を深め、実際に保育者として勤務できる専門性を身につける。	(1) 事前指導及び実習を通して、保育に関する基礎・基本を身につけることができる。 (2) 実習を通して、子どもの発達や保育の在り方について理解することができる。 (3) 実習及び実習の反省を通して保育者としての専門性について理解することができる。	●	○	◎		④	
総合科目	実践と応用	PA 380	保育・教職実践演習(幼稚園)	演習A	2	2	○	○		保育者の専門性・実践力を具体的に捉え、応用する	今までに習得した知識・技術等を活用・応用できる学習を通して、さらなる実践力の向上を目指す。	(1) 理想とする保育者像を具体的にイメージして、それに近づこうと努力することができる。 (2) 個と集団を育てる学級経営、保護者への対応、安全計画・保健計画に関して、実践的に学び活用することができる。 (3) 保育現場を想定した環境で実践学習を行い、それらを活用することができる。	●	◎	○		④	
		PA 390	課題研究Ⅰ	演習B	1	2	○	○		保育者の資質としての実践力、協働性、多様性を身につける	実習や保育現場で実際に子どもたちと行う活動に対して役立てられるよう、様々な角度から学ぶ。主体的、積極的、協働的に活動を進めていく中で、社会人として社会に貢献できる力を身につけていく。	(1) 計画、準備、実践、記録という一連の流れを自ら考えて実践することができる。 (2) 新しい気づきや多面的な視点、判断力・協働性を身につけることができる。 (3) 保育者等としての資質を理解した上で、実践に活かすことができる。	●	●	◎			
		PA 391	課題研究Ⅱ	演習B	1	2	○	○		保育者の資質としての実践力、協働性、多様性を身につける	実習や保育現場で実際に子どもたちと行う活動に対して役立てられるよう、様々な角度から学ぶ。主体的、積極的、協働的に活動を進めていく中で、社会人として社会に貢献できる力を身につけていく。	(1) 計画、準備、実践、記録という一連の流れを自ら考えて実践することができる。 (2) 新しい気づきや多面的な視点、判断力・協働性を身につけることができる。 (3) 保育者等としての資質を理解した上で、実践に活かすことができる。 (4) 自らの学びの成果をまとめ、わかりやすく伝えることができる。	●	●	◎			